

ボランティアの横顔

広げようボランティアの輪

ここでは、普段ボランティアとして活動されている皆さんにボランティアを始められたことや実際に活動する内容などを紹介していきます。

活動している皆さんは、それぞれの活動にやりがいを持っているようです。あなたもボランティアとして活動してみませんか。

多くの方がボランティアに参加を

ボランティアを始めて、配達ボランティアの方とつながりが出来たこと、広報をよく読むようになったこと、町政に関心が強くなり、広報を読むために、健康に気を付けるようになったそうです。

鈴木さんは、「ボランティアのネットワーク広がり、若い方など多くの方が参加していくようになると思います」とボランティアの輪が広がっていくことを願っています。



鈴木巨子さん(朗読ボランティア)
「朗読が好きで、地域に協力できることがあればと思い始めました」とボランティアを始めたいきっかけを話す鈴木さん。

「ありがとう」の一言が嬉しい



賀沢弘道さん(配達ボランティア)
配達していて「「ありがとう」という一言が嬉しいです」と話していました。

賀沢さんにボランティアを始めたいきっかけを尋ねると、「退職して何かしてみようと思っていたところ、ちょうど広報のボランティア募集記事を見て、活動を始めることになりました」と答えてくださいました。

ボランティアが楽しみ



鈴木節子さん(配達ボランティア)

利用者とのふれあいを求めて、配達ボランティアとしての活動を決めたそうです。

配達ボランティアとして活動している鈴木さん。退職したら時間が出来るので、視聴覚ボランティアとして活動しようと考えておられ、点訳や手話の勉強をして準備していたそうです。

活動を通じて「利用者から「ご苦労様でした」「助かっています」「などと声を掛けられることが嬉しいです。大変だとは一度も感じたことはありません。むしろ楽しみですよ」と話してくださいました。

鏡石環境を考える会

=プロフィール=

平成11年4月に有志で発足した会で、現在は会員60名で活動しています。

この会は、自然にも人にもやさしく、地域住民が住み良い環境づくりと健康で明るいまちづくりを目的としています。

活動内容は、町が進めるフローラのまちづくりの協力、ごみ減量化とリサイクル問題などに取り組んでいます。ひまわりの苗植え、ゴミ拾いなどをして環境美化に努めています。

「何か人のためになることをしてみたい。温暖化のこと、環境についてと考え、近所の人、知人に呼びかけてこの会を発足しました。色々な人と知り合いになれたこと、人のために、町のためにと思うと楽しくなりました。相手の立場で考えることが大事であることを感じました」とボランティアを通じての体験談を話す佐藤さん。



会長 佐藤義和さん
「ボランティアは人のためだけでなく自分のため。聞く耳を持つことが大切ですね」と話す佐藤さん。

- ① 本年10月14日には、二本松市内の施設で研修を行い、リサイクルに関する知識を深める。
- ② 子どもボランティアが参加し、会で育てたひまわりの苗植えを行う。
- ③ 子どもボランティアと会員で植栽したひまわりが花を咲かせ、通行する人達に元気を与えた。



鏡石環境を考える会では、この他にも水環境の保全活動、地球温暖化防止の推進や循環型社会づくりに積極的に取り組み、自然や人にやさしいまちづくりのため、活動を続けています。

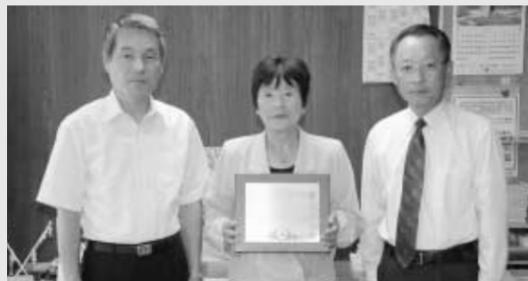
鏡石町赤十字奉仕団

=プロフィール=

赤十字ボランティアのひとつで、平成3年に設立し、「地域社会を住みよくしよう」という気持ちを持った人々によって活動を行っています。

会は48名で構成され、正木トキ子さんが委員長を務めています。

活動内容は、災害発生時に備えた炊き出し訓練などを実施しています。



赤十字奉仕団役員の飛澤ハル子さん、菊地秀子さんの長年の功績に対し、日本赤十字社から銀色有功章を受賞されました。写真は、飛澤さんが木賊町長に受賞の報告のため来庁した時の写真です。お二人は、現在も委員として活動されています。

声の広報ボランティア

=プロフィール=

目が不自由な方を対象としたボランティアです。町の広報紙を朗読ボランティアがテープに吹き込み、そのテープを配達ボランティアが目が不自由な方に配達します。

平成11年4月から継続して実施しているこのボランティアは、現在、8名の方が利用しています。このボランティアには、1名の朗読ボランティア、2名の配達ボランティアが活動しています。